

絵画と物語

～私の富士山～

担当教員 山口 藍/工藤礼二郎

受講アトリエ [701]

2024/11/22(金)- 12/13(金)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

描こうとする題材（テーマ）を任意の物語や散文などの一場面に設定し、それを絵画作品として表現するために最も適した支持体を選び（あるいは作り）制作する。作品を構成するあらゆる要素に意味を持たせたり、それを伝えたりできると意識することで、作品制作において色々な角度から思考し掘り下げていくことにつなげていく。

※キャンバス以外にも、あらゆる物に支持体の可能性を探ってみること。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	11月22日	金	○	オリエンテーション		自主制作	
2	11月23日	土		勤労感謝の日			
3	11月24日	日					
4	11月25日	月		自主制作	○	制作指導	
5	11月26日	火		自主制作		自主制作	
6	11月27日	水		自主制作	○	制作指導	
7	11月28日	木		版画概論		自主制作	山口：3年指導日
8	11月29日	金		自主制作		自主制作	
9	11月30日	土		絵画講座		自主制作	
10	12月1日	日					
11	12月2日	月		自主制作	○	制作指導	
12	12月3日	火		自主制作		自主制作	
13	12月4日	水		詩と表現		自主制作	
14	12月5日	木		版画概論		自主制作	
15	12月6日	金		自主制作	○	制作指導	
16	12月7日	土		絵画講座		自主制作	
17	12月8日	日					
18	12月9日	月		自主制作	○	制作指導	
19	12月10日	火		自主制作		自主制作	
20	12月11日	水		自主制作		自主制作	
21	12月12日	木		版画概論		自主制作	山口：3年指導日
22	12月13日	金		自主制作	○	講評	

学習目標

支持体と描画の関係性

平面絵画において、特に支持体が作品の内容にもたらす影響を改めて考え、実際の制作を通して描画との相互の関係性を探る。

予習・準備物

こちらで用意した物語や詩の中から各々興味あるものについて読み込みや必要なリサーチをし、新たに発見・想像した解釈を絵画にしていく。内容に相応しい支持体の素材を同時進行で考えていくため、普段からキャンバス以外で支持体として使用してみたいものや可能性のあるものを考えておくと良い。

注意事項

自分が選択した題材および素材に真摯に向き合い、今後の制作活動にもつなげていけるような作品にするため、指導日には必ず話し合えるようにしましょう。

※ 状況により講評がzoomになる場合、可能な限り前日までに学校に課題を提出しておいてください。(課題内容の性質上、質感なども含め講評するため)

評価方法

課題提出による採点

2年ファインアート科

木版画

担当教員 鈴木吐志哉
 受講アトリエ [701]

2024/10/31(木)-11/20(水)
 9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

1年次の「専攻別ワークショップ（版画専攻）」で体験した油性木版画1版単色をこの授業ではさらに水性多色木版画に展開していくことで、木版画技法の充実と色彩について研究します。水性多色木版画の技法は浮世絵に見られるように日本独自の進化を遂げた技法でもあります。古来からの技法と現代の技法を駆使して自由な発想で制作してもらいます。
 ・版木サイズ300×225mm（4～5版多色）

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	10月31日	木		版画概論	○	□ガイダンス 木版画について 水性摺りの技法をひとつとおり	・参考作品を鑑賞しながら ・和紙の湿し方
2	11月1日	金	○	□ワークショップ ・用意した版木を使って摺り体験	○	・トレースについて ・彫刻等について	・トレースの方法 ・彫刻刀の安全な使用法 ・摺り方による様々な効果
3	11月2日	土		下絵制作～トレース		下絵制作～トレース～彫版	下絵 → マットフィルム → 版木
4	11月3日	日					
5	11月4日	月		トレース～彫版		トレース～彫版	
6	11月5日	火		彫版	○	□木版画表現 ① ・摺り方による効果	・様々なボカシ摺り ・様々なベタ摺り
7	11月6日	水		彫版		彫版	
8	11月7日	木		彫版～試し摺り		彫版～試し摺り	
9	11月8日	金	○	彫版～試し摺り	○	□木版画表現 ② ・彫刻刀以外も使って制作	・様々なテクスチャー ・モデリングペースト ・水性ウレタンニス
10	11月9日	土		彫版～試し摺り		彫版～試し摺り	
11	11月10日	日					
12	11月11日	月		彫版～試し摺り	○	□木版画表現 ③ ・油性インクによる摺り	・油性インクによる表現 ・プレス機とバレン
13	11月12日	火		彫版～試し摺り		彫版～試し摺り	
14	11月13日	水		彫版～試し摺り		彫版～試し摺り	
15	11月14日	木		彫版～試し摺り		彫版～試し摺り	
16	11月15日	金	○	彫版～試し摺り	○	□木版画表現 ④ ・作品の展開	・色彩・油性と水性・プレス機とバレンの効果の違い等を生かした表現の展開
17	11月16日	土		彫版～試し摺り		彫版～試し摺り	
18	11月17日	日					
19	11月18日	月		彫版～試し摺り	○	彫版～試し摺り	
20	11月19日	火		彫版～試し摺り	○	□作品の仕上げ	・水張りやその他の仕上げ ・額装について
21	11月20日	水		本摺り		本摺り	
22	11月21日	木		本摺り	○	講評	

学習目標

水性多色木版画作品制作および基本技術と技法の展開。

予習・準備物

筆各種、紙皿2～3枚または紙パレットの小サイズ。筆、紙皿などは沢山あると便利です（100均のもので可）

注意事項

刃物を使用するので緊張感を持って制作する。

評価方法

提出課題による採点・授業態度・摺りの経験値

詩と表現

担当教員 田野倉康一

受講アトリエ

2024/11/6(水)- 2025/2/19(水)

11:00-12:30

授業内容

受講者がそれぞれに詩に触れ、受容し、詩作することを通して、他人の言葉に左右されることなく、ファインアートやデザインの実践の中で言葉とうまく付き合っていけるようになること。

授業スケジュール

			指導	AM	指導	PM	備考
1	11月6日	水	○	オリエンテーション		実技カリキュラム	
2	11月20日	水	○	詩とは何か		実技カリキュラム	
3	12月4日	水	○	詩と美術		実技カリキュラム	
				冬季休校 12月14日～1月5日			
4	1月8日	水	○	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
5	1月22日	水	○	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
6	2月5日	水	○	作品購読、実技指導		実技カリキュラム	
7	2月19日	水	○	講習会		実技カリキュラム	

学習目標

今回は実技を中心に考えています。やってみるとわかりますが、詩は美術に近い。日常言語の呪縛を破って、言葉でも自分の世界を作って未知の領域に足を踏み入れてみましょ。

予習・準備物

できれば図書館などで、思潮社の現代詩文庫シリーズなどを見て、好きになれそうな詩人を見つけておいてもらってベストです。それから、雑誌『現代詩手帖』の一昨年(2023)の六月号で詩と美術の特集をやっているので、これも図書館などで目を通しておいてもらえれば、話がわかりやすいかもしれません。

注意事項

この授業を有意なものとするか否かは徹底的に本人次第です。それが「詩」を自らのものとする第一歩です。

評価方法

作品及び毎回配布するレジュメの提出により採点する。

絵画講座

担当教員 宮田徹也

受講アトリエ【502】 修得単位：1単位

2024/10/05(土)-01/18(土)

11:00-12:30

授業内容

様々な文献を読んで、考え、意見を交換する。芸術、社会学、経済学、経営学、物理学、宇宙論、量子力学、脳科学、動物行動学、先史学等である。意思が通じるコミュニケーションは、対面でもオンラインでも可能だ。レポートとは課題ではなく、自主的な筈だ。予習、学習、復習は、一生、続いていく。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	10月5日	土	○	オリエンテーション。		実技カリキュラム	
2	10月12日	土	○	受講生作品紹介。		実技カリキュラム	
3	10月19日	土	○	『芸術を愛し、～』感想と問題点議論。		実技カリキュラム	
4	10月26日	土	○	ハンナ・アーレントの思想と芸術。(図書新聞)		実技カリキュラム	
5	11月2日	土	○	カルロ・ロヴェツリ思想と芸術。		実技カリキュラム	
6	11月9日	土	○	楠木建『ストーリーとしての競争戦略』と芸術。		実技カリキュラム	
7	11月16日	土	○	ネアンデルタール人とホモサピエンス。		実技カリキュラム	
8	11月30日	土	○	GAFaと5Gとこれからの芸術。		実技カリキュラム	
9	12月7日	土	○	様々な音楽と美術。		実技カリキュラム	
10	1月11日	土	○	暗黒舞踏という芸術。		実技カリキュラム	
11	1月18日	土	○	受講者達のリクエスト授業。		実技カリキュラム	
12	2月1日	土	○	まとめ。		実技カリキュラム	

学習目標

芸術を通じて、人間を知る。己と他者を区別して考え、他者と自己の気持ちを理解し、他者の立場になって自己を考える。人間を知るためには、人文科学、自然科学、科学に定義されていないものも学ぶ必要がある。芸術が、人間を取り巻く事物と事象のどこに位置するのかを確認しなければならない。それを、制作に繋げる。

予習・準備物

予め『芸術を愛し、求める人々へ』（論創社 | 2020年）を読み終えて授業に参加して下さい。各授業で参考文献のコピーを配布します。

注意事項

出席重視です。うまく言葉にならなくとも発言するように頑張ってください。できるようになりたいと願えば、叶います。しかし願わなければ、何も進まないのです。難しいことを考えずに、直感で発言しましょう。発言することで、自己を発見することができます。そして、互いの話を良く聞き、解釈し、発言のキャッチボールを目指しましょう。苦手を克服し、楽しく授業を共に行いましょう。

評価方法

レポート提出による採点。50%。毎回白紙を配布しますので、そこにメモして提出して下さい。出席50%。

2年 ファインアート科

版画概論

担当教員 天野純治

受講アトリエ【501】

2024/10/03(木)- 2025/01/16(木)

11:00-12:30

授業内容

現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い、現代版表現を考える。自身の作品をより理解し、制作の可能性を拡げることを目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	10月3日	木	○	授業説明(版表現について)作品鑑賞		実技カリキュラム	
2	10月10日	木	○	作品鑑賞		実技カリキュラム	
3	10月17日	木	○	作品鑑賞		実技カリキュラム	
4	10月24日	木	○	作品鑑賞		実技カリキュラム	
5	10月31日	木	○	作品プレゼンテーション		実技カリキュラム	
6	11月7日	木	○	作品鑑賞		実技カリキュラム	
7	11月14日	木	○	作品鑑賞		実技カリキュラム	
8	11月28日	木	○	作品鑑賞		実技カリキュラム	
9	12月5日	木	○	作品鑑賞		実技カリキュラム	
10	12月12日	木	○	作品鑑賞		実技カリキュラム	
				12/14~1/5冬季休暇			
11	1月9日	木	○	作品プレゼンテーション		実技カリキュラム	
12	1月16日	木	○	作品プレゼンテーション		実技カリキュラム	

学習目標

この授業では現代版画とは何かを考えることを目標とします。現代版画や現代美術について多くの作品を鑑賞し、様々な作品が持つ魅力やコンセプトを知って行きます。それら作品の変遷、現代美術史に理解を深めることから個々の制作の可能性を拡げることを目標とします。

予習・準備物

各自、日常的に展覧会(画廊、美術館)を多く見ることから客観性を意識し、作品の持つ考え(コンセプト)に対して考察を行う。

注意事項

積極性を持って授業に参加してください。

評価方法

授業での積極性。自身の作品のプレゼンテーション、および研究発表。

2年 ファインアート科

抽象絵画考

担当教員 工藤礼二郎
受講アトリエ [701]

2024/10/01(火)-10/19(土)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

20世紀初頭に誕生した抽象絵画という概念や形式はどのようなものなのか。またそれらは21世紀の現在においてどのように引き継がれるであろうか。概念的な思考の前にまずは抽象の様々なあり様を描くことを通して体験し、自らの表現として獲得しうるかを試みる。

授業スケジュール/計画

		指導	AM	指導	PM	備考
1	10月1日	火	写真と美術		抽象絵画解説書配布	2日のガイダンスまでに必ず読んでおくこと
2	10月2日	水	○ ガイダンス		熱い抽象/紙による試作	
3	10月3日	木	版画概論		熱い抽象/紙による試作	
4	10月4日	金	○ それぞれが見つめてきた素材と共に自分のテーマを考えながらエスキース	○	熱い抽象/紙による試作	
5	10月5日	土	絵画講座		熱い抽象/紙による試作	
6	10月6日	日				
7	10月7日	月	冷たい抽象/紙による試作		冷たい抽象/紙による試作	
8	10月8日	火	写真と美術	○	冷たい抽象/紙による試作	
9	10月9日	水	それぞれの素材を使いながら大きめエスキース制作	○	冷たい抽象/紙による試作	
10	10月10日	木	版画概論		冷たい抽象/紙による試作	
11	10月11日	金	本作品制作	○	本作品制作	
12	10月12日	土	絵画講座		本作品制作	
13	10月13日	日				
14	10月14日	月				
15	10月15日	火	写真と美術	○	本作品制作	
16	10月16日	水	本作品制作		本作品制作	
17	10月17日	木	本作品制作 版画概論		本作品制作	
18	10月18日	金	本作品制作	○	講評会	
19	10月19日	土	本作品制作 絵画講座		講評会(予備日)	

学習目標

抽象絵画が難解で分かりづらい芸術であるという呪縛から解き放ち、表現手段の一選択肢として考慮できるようにする。

予習・準備物

抽象絵画を考えながら、同時にこれまでのそれぞれの制作方法に新たなエッセンスを見つけることもこの課題の目的の一つである。それぞれがどのような素材を使い、どのように描くかを個別に検討していく。

注意事項

評価方法

提出課題による採点 作品提出1点以上+ドローイング(上限なし)。

2年 ファインアート科

写真と美術

担当教員 松蔭浩之

受講アトリエ [502]

2

2024/9/17(火)- 10/29(火)

9:20-10:50/11:00-12:30

授業内容

歴代写真家の作品を紹介し、読み解きながらの座学と、デジタルカメラの扱い方を指導しつつ、ワークショップ形式で制作を重ねる。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	9月17日	火	○	写真の誕生/カメラの仕組み		授業カリキュラム(シルク)	
2	9月24日	火	○	デジタルカメラ入門1		授業カリキュラム(シルク)	
3	10月1日	火	○	私の写真論1/カルティエ・ブレッソンを「読む」		授業カリキュラム(抽象)	
4	10月8日	火	○	私の写真論2/WS「モノクロ・ユニバース」		授業カリキュラム(抽象)	
5	10月15日	火	○	デジタルカメラ入門2/スティルライフ		授業カリキュラム(抽象)	
6	10月22日	火	○	セルフポートレート/森村泰昌		授業カリキュラム(IL_B)	
7	10月29日	火	○	グループ展示/講評会		授業カリキュラム(IL_B)	

学習目標

写真の成り立ちから、構図や光の捉え方などを享受しつつ、「写真とはなにか？」を考察し、絵画制作に活用することを目標にする。

予習・準備物

カメラ(フィルム、デジタル問わず)。スマートフォンでも可

注意事項

評価方法

授業態度及び提出課題による採点

イラストB

担当教員 須田浩介
 受講アトリエ [701]

2024/10/21(月)-10/30(水)
 9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

4枚の作品を描く。描くテーマは各自で決めて良いです。自分なりに表現のフォーマットを考えてから描く。描くもののテーマ、コンセプト、発表する際のブランディングを意識する。
 テーマ例、四季、トランプ、方角、喜怒哀楽、etc
 分かりやすいので4にまつわるものを例に出しましたが別にそこはそんなに意識しなくても良いです。自分の好きな物事などに絡めて自分の表現の枠で4枚描く。

授業スケジュール/計画							
			指導	AM	指導	PM	備考
1	10月21日	月			○	オリエンテーション	
2	10月22日	火		写真と美術		制作	
3	10月23日	水		制作	○	制作	
4	10月24日	木		版画概論	○	制作	
5	10月25日	金		制作	○	制作	
6	10月26日	土		絵画講座		制作	
7	10月27日	日		特待			
8	10月28日	月		制作	○	制作	
9	10月29日	火		版画概論		制作	
10	10月30日	水		制作	○	講評	

学習目標

イラストレーターがクライアントワークで行うアイデア出しラフの提出などのプロセスを活かし制作に取り組みアーティストとしてもイラストレーターとしても必要なコンセプトと作品表現とを繋げる力を伸ばす。アナログ画材を使用し与えられた枠組みの中で作品を制作する上で個々の持つ個性や表現を活かしながらより魅力的な作品表現となる様に作品を描く上でのコンセプトと「何故」をよく考えながら表現に繋げ自分の表現や世界観をブランディングしていく為の授業です。

予習・準備物

学生準備物：画材はアナログツールであれば自由、作品の支持体も自由(サイズはA4サイズ以上)、サイズは4枚とも揃える事。

注意事項

制作に必要な画材は自分で用意してもらうことになります。自分の表現を発揮できる支持体や描画材を選び自分の世界観を遺憾なく発揮し制作をしてください。

評価方法

課題提出と授業態度で評価する。

シルクスクリーン

担当教員 東樋口徹

受講アトリエ [工房/701]

2024/09/17(火)-/09/30(月)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

基本的な水性インクで紙に刷る4版4色を使った作品(A4/21cm×29.7cm)を一点(紙4枚程度)、5版以上を使った作品(A3/29.7cm×42cm)を一点(紙8枚程度)制作。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	9月17日	火		写真と美術	○	オリエンテーション	
2	9月18日	水	○	PCを使用したフィルム作成	○	製版及び刷り方説明	PCを使用したフィルム作成説明
3	9月19日	木		制作		制作	
4	9月20日	金		制作	○	色々な刷り方説明	
5	9月21日	土					
6	9月22日	日					
7	9月23日	月					
8	9月24日	火		写真と美術		制作	
9	9月25日	水		制作	○	制作	
10	9月26日	木		制作		制作	
11	9月27日	金		制作	○	制作	
12	9月28日	土		制作	○	制作	
13	9月29日	日					
14	9月30日	月		制作	○	講評	

学習目標

シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し、環境にやさしい水性インクを使用して刷紙に刷ります。PCを使用した4色分解による4版4色の作品(18×25cm位)を1点、5版以上を使った作品(25×38cm位)を1点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。

予習・準備物

写真等の画像データ(200~300ppi程度の解像度でA4サイズ程度)、下絵(A3程度)、紙コップ、プラスチックスプーン、ウエス(ボロ布)、新聞紙、用紙(いずみまたは厚紙ケント紙)、制作マニュアル、マスキングテープ、試し刷り用紙(なんでも可)

注意事項

初日にPCを使用したフィルム作成の説明及び作成を行います。初日までにPCを使用した4色分解による作品用の写真等の画像データを用意すること。(短辺が1500pixel以上の物)

評価方法

習熟度と提出課題による採点

2年ファインアート科

ドローイングと製本

担当教員 山口茉莉
受講アトリエ [701]

2024/09/02(月)- /09/11(水)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

自身のドローイングを実際に製本する過程を通して、紙の持つ性質を知り、一定の完成度を持った製本を行います

授業スケジュール/計画

	指達	AM	指達	PM	備考
1	9月2日 月	○	概要説明/練習①中綴じ製本	○	計画案
2	9月3日 火		計画案、ドローイング	○	練習②じゃばら製本/ドローイングについて
3	9月4日 水		ドローイング、スキャン、PC作業	○	スキャンからデータ制作について
4	9月5日 木		PC作業/出力		PC作業/出力
5	9月6日 金		PC作業/出力	○	本文/表紙制作
6	9月7日 土		本文/表紙制作		本文/表紙制作
7	9月8日 日				
8	9月9日 月	○	布の裏打ち	○	表紙を作る
9	9月10日 火		完成までの制作		完成までの制作
10	9月11日 水		完成までの制作	○	仕上げ/講評会

「製本」を通して、紙の仕事を行う上で重要な素材の特性を知り、道具の使い方を身につけます。また、本に仕立てる為のドローイングを考えることで「見る側」と「見せる側」の両者の視点を養い、より作品の完成度を高めることを目指します。

予習・準備物

学生が用意するもの：筆記具、シャープペンシルは必須です。参考にしたい製本のデザインがあれば画像を出力してきてください。

予習：夏休みになるべくドローイングをしてきてください。授業初日に持参をお願いします。また、日常的に本に意識を向けてみてください。

注意事項

製本はミリ単位の計算や、細かい作業の多い授業です。遅れを取ると次週に影響するので遅刻・欠席のない様に努めてください。

評価方法

提出課題による採点

課題作品70% 制作態度・積極性30%

2年 ファインアート科

物質と絵画

担当教員 伊藤泰雅/工藤礼二郎

受講アトリエ 【701】

2024/06/20(木)-07/13(土)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

これまでの制作から主題・モチーフを決める。画用紙以外の支持体にドローイング・コラージュなどでエスキースを重ねる。その際に選んだ支持体の物質からキャンヴァスに下地を施す。物としての強度について意識しながら作品を制作する。

授業スケジュール/計画

		指導		AM	指導	PM	備考
1	06月20日	木	○	オリエンテーション	○	テーマ、モチーフ	
2	06月21日	金	○	エスキース/キャンバス張り	○	エスキース	AM工藤
3	06月22日	土		版画講座		海外講座	
4	06月23日	日					
5	06月24日	月		エスキース		エスキース/下地作り	
6	06月25日	火		造形演習		エスキース/下地作り	
7	06月26日	水		エスキース/下地作り		エスキース/下地作り	
8	06月27日	木		エスキース/下地作り		エスキース/下地作り	
9	06月28日	金	○	エスキース採点/下地作り	○	下地作り/タブロー	AM伊藤 工藤
10	06月29日	土		版画講座	○	下地作り/タブロー	
11	06月30日	日					
12	07月01日	月		タブロー		タブロー	
13	07月02日	火		造形演習			
14	07月03日	水	○	タブロー	○	タブロー	
15	07月04日	木		タブロー		タブロー	
16	07月05日	金		タブロー	○	タブロー	PM工藤
17	07月06日	土		版画講座	○	タブロー	
18	07月07日	日					
19	07月08日	月		タブロー		タブロー	
20	07月09日	火		造形演習	○	タブロー	
21	07月10日	水		タブロー		タブロー	
22	07月11日	木		タブロー		タブロー	
23	07月12日	金		タブロー	○	タブロー	
24	07月13日	土		版画講座	○	講評	伊藤/工藤

学習目標

主題を明確化し、素材と手法の選択の過程で、作家としての自覚とこだわりを喚起する。物質性、絵画性の両面から制作を見直し、完成度の高い作品を1点 (F20号) 制作する。

予習・準備物

制作ノート (テーマ,モチーフを書き出しておく) モチーフ資料(これまでの作品、描きたい物、写真、画像等)

エスキースのための段ボール、紙やすり、ビニール、厚紙、等。

注意事項

エスキースの支持体の選択。タブローの下地の作り方。

評価方法

エスキース,タブローの2点を採点。下地についての理解度,作品の完成度,魅力から総合的に評価。

2年 ファインアート科

リトグラフ

担当教員 中村 真理

受講アトリエ [702/工房]

2024/6/01(土)- 06/19(水)

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。4版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	6月1日	土		版画講座	○	オリエンテーション/版の準備	
2	6月2日	日					
3	6月3日	月		描画	○	描画	
4	6月4日	火		造形演習		描画	
5	6月5日	水		描画・製版	○	製版のデモ	
6	6月6日	木	○	刷りのデモ	○	製版・刷り	モノクロ作品完成、終わった人から多色作品の制作
7	6月7日	金		自主制作		自主制作	
8	6月8日	土		版画講座		自主制作	
9	6月9日	日					
10	6月10日	月		自主制作		自主制作	
11	6月11日	火		造形演習		自主制作	
12	6月12日	水		自主制作		自主制作	
13	6月13日	木		自主制作	○	ベタ版のデモ	
14	6月14日	金		自主制作		自主制作	
15	6月15日	土		版画講座		自主制作	
16	6月16日	日					
17	6月17日	月		自主制作	○	自主制作	
18	6月18日	火		造形演習	○	自主制作	
19	6月19日	水	○	自主制作	○	講評会	

学習目標

講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

予習・準備物

300×400mm程度の作品のもとになるエスキース、ウエス、新聞紙、紙（試し刷り用上質紙、いづみ等版画用紙）、描画材（ダーマトグラフ、リトクレヨン、とき墨、油性ボールペン等）、筆、マスキングテープ、作業着やエプロン等

注意事項

作業行程の多い技法です、計画的に進めること、エスキースは色も含め考えてきてください。白黒1版の試しの作品と3～4版程度使った多色の作品を制作します。提出は多色作品のみ。

評価方法

提出課題による採点

2年 ファインアート科

絵画技法実習(混合技法)

担当教員 工藤礼二郎
受講アトリエ [701]

2024/5/20(月)- 2024/05/31(金)
9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

有色下地を施したキャンバスにエマルジョンテンペラと油彩の積層からなる描画により、視覚的リアリズムを追求する。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	5月20日	月	○	オリエンテーション 地塗り/図版選定	○	トレース/墨入れ	図版は学生が各自数点準備する
2	5月21日	火		造形演習	○	墨入れ/有色下地塗布	
3	5月22日	水	○	エマルジョンテンペラによる白色浮出		エマルジョンテンペラによる白色浮出	
4	5月23日	木		油彩グレース/白色浮出		油彩グレース/白色浮出	
5	5月24日	金	○	油彩グレース/白色浮出	○	油彩グレース/白色浮出	
6	5月25日	土		版画講座		油彩グレース/白色浮出	
7	5月26日	日					
8	5月27日	月	○	油彩グレース	○	油彩グレース/油彩描写	
9	5月28日	火		造形演習	○	油彩グレース/油彩描写	
10	5月29日	水	○	混合白によるハイライト		油彩グレース/油彩描写	
11	5月30日	木		油彩グレース/油彩描写		油彩グレース/油彩描写	
12	5月31日	金		油彩グレース/油彩描写	○	講評/片付け	

学習目標

ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法である油彩とテンペラによる混合技法を習得することを目的とする。

予習・準備物

描きたい人物や風景などの図版(写真)を各自準備する。図版はなるべく陰影があるものが望ましい。サイズはF6号(410×318mm)
尚図版は初日オリエンテーションの際に講師がチェックします。描きにくい図版の場合変更してもら場合があります。

注意事項

評価方法

提出課題による採点

銅版画

担当教員 馬場知子

2024/04/10(水)-04/26(金)

受講アトリエ [工房/602] 修得単位: 1単位

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

まずテストプレートで様々なマチエール表現を試しながら「道具、薬品の使い方」「描画」「製版」「刷り」の作業工程を理解し体得していきます。本作では自分のイメージの具現化に必要な表現や技法を選択し制作します。
(わからないことはなんでも聞いてください。安全に楽しく制作しましょう)

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	4月10日	水		制作準備	○	説明 小作品(テストプレート)制作	制作準備
2	4月11日	木		版画講座	○	説明 小作品制作	
3	4月12日	金	○	小作品制作 本作品準備説明		避難訓練/	
4	4月13日	土		小作品制作 本制作準備		小作品制作 本制作準備	
5	4月14日	日					
6	4月15日	月		本制作準備		本制作準備(遅くともここまでエスキースを仕上げる)	
7	4月16日	火		造形演習	○	エスキースチェック、本制作スタート	
8	4月17日	水		本制作(描画、腐蝕)	○	本制作(描画、腐蝕)	
9	4月18日	木		本制作(描画、腐蝕)		本制作(描画、腐蝕)	
10	4月19日	金		本制作(描画、腐蝕)		本制作(描画、腐蝕)	
11	4月20日	土		版画講座		本制作(描画、腐蝕)	
12	4月21日	日					
13	4月22日	月		本制作(試し刷り)		本制作(試し刷り)	
14	4月23日	火		造形演習	○	本制作(加筆、刷り)	
15	4月24日	水		本制作(加筆、刷り)	○	本制作(加筆、刷り)	
16	4月25日	木		本制作(本刷り)		本制作(本刷り)	
17	4月26日	金		講評準備	○	講評	
18	4月27日	土		新入生の日			

学習目標

銅版画の制作プロセスを修得し、作品を完成させます。銅版画には様々な技法がありますが、エッチングを中心に物質の変容と結びついた腐食技法の多様な表現に触れます。版を媒介することで生じる他者性を柔軟に取り入れながら自分の表現の世界を広げましょう。

予習・準備物

予習: 今回自分が挑戦したい表現や描いてみたいテーマがあれば簡単な下絵を用意して見せて下さい。(なくてもよい) 準備物: ◇インク(シャルボネ 55985, 文房堂インク青口) ◇グランド◇黒ニス◇裏止め用塩化ビニールシート◇リグロイン◇プリントクリーナー◇人絹◇寒冷紗◇ニードル人数分 スクレーパー パニツシャー◇ハーネミュレ◇ピカール◇青棒◇松脂等アクアチントセット◇スパイクラベンダーオイル◇マットフィルム◇サンドペーパー(60~180番)

注意事項

紙やキャンバスに直接描くのと違い、版画はたくさんの工程を経て初めて自分の描いたもの(行為の結果)を確認できます(しかも左右反転して現れます)。ゆえに最初は面倒で制約の多いメディアと感じるでしょう。しかし一通り工程の意味を理解し表現技法を修得すれば、自由にどんどん世界を広げていけます。授業最初のテストプレート作りで積極的に遊んだり実験してみて、本作制作の前に銅版に親しみましょう。*作品銅版サイズ 200x300mm(銅版はカットすることも出来ます)

評価方法

課題作品70% 制作姿勢(熱意・積極性など)30%

イラストA

担当教員 今野樹里恵

2024/05/07(火)-05/18(土)

受講アトリエ [701]

9:20-12:30/13:30-16:30

授業内容

文学にまつわる挿絵を連作（サイズに応じて3～5カット）で制作する。装丁や挿絵などで既存イメージができてい文学を、自分だけの表現方法で再構成すること。更に連作で制作することによって世界観を確固たるものとして表現することを学ぶ。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	5月7日	火		造形演習	○	オリエンテーション	
2	5月8日	水		制作		制作	
3	5月9日	木		紙漉き研修			
4	5月10日	金		制作	○	制作	
5	5月11日	土		版画講座		制作	
6	5月12日	日					
7	5月13日	月		健康診断			
8	5月14日	火		制作	○	制作	
9	5月15日	水		制作		制作	
10	5月16日	木	○	制作	○	制作	
11	5月17日	金		制作		制作	
12	5月18日	土		版画講座	○	講評	

学習目標

テーマに基づくイラストレーション制作を修得します。一つの世界観で一連の作品を制作すること、自分の内面を表現するだけでなく外的要因（文学）に応じて制作をすることで、既存の表現に囚われずに新しい自分だけの表現を目指します。

予習・準備物

学生準備物：ストーリー性のある文学（どうしても見つからない場合はなくても良い、授業中に相談に応じる）

制作に必要な画材

注意事項

制作に必要な画材は自分で用意してもらうことになります。自分の表現を発揮できる支持体や描画材を選び、自分の世界観を遺憾なく発揮し制作をしてください。ストーリーに基づき、3カット以上は必ず制作しましょう。仕上げ切ることが重要です。

評価方法

課題提出と授業態度で評価する。

2年 ファインアート科

造形演習

担当教員 船井美佐

受講アトリエ 【502】

2024/04/16(火)- 07/09(火)

9:20-10:50/11:00-12:30

授業内容

絵画について、古今東西の伝統的な様式から近現代までのあり方を比較しながら学ぶことで、現代のまだ見ぬ新しい絵画表現について考えるための手掛かりとする。毎回、レクチャーの後に、実際の画材や技法を体験しドローイングや課題を制作する。

- 「絵の中」何をどう描くか？ものの捉え方や構図など、対象を2次元に表す方法の様々なことについて。
 - 「絵の表面」何を使って描くか？絵具や絵肌、支持体など物質としての絵画のあり方の変化について。
 - 「絵の外側」どのように展示するか？作品と人と空間の関係の多様性について。
- 最後にそれまでの授業の制作物で空間を構成し、各自インスタレーションとして発表する。"

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考・準備物
1	4月16日	火	○	オリエンテーションとアーティストトーク 自己紹介、自分の作品について話す練習。			自己紹介カードとこれまで描いた中で一番気に入っている自分の作品を持ってくる
2	4月23日	火	○	「イメージを形にする①言葉とコンセプト」 世界で活躍する現代アーティスト、オノヨーコ、草間彌生など。			筆記用具、 絵具セット水彩またはアクリルなど (画用紙カード)
3	5月7日	火	○	「イメージを形にする②ドローイング」 現代のさまざまな絵画表現、抽象と具象			鉛筆、絵具セット、(紙)
4	5月21日	火	○	「平面・もののとらえ方1」 西洋絵画の始まり、ルネッサンス、遠近法、光と影によるデッサン			鉛筆デッサンの道具、(B3パネル、画用紙)
5	5月28日	火	○	「平面・もののとらえ方2」 東洋絵画のあり方、線と面による表現、デフォルメ、構図			(墨・筆・絵具のセット、和紙)
6	6月4日	火	○	「構図と色彩の基本」 近代化による絵画の変化、マネ、モネ、ゴッホ、ピカソ、マチスなど			鉛筆(アクリル絵具セット、 B3パネル、画用紙)
7	6月11日	火	○	「抽象の始まりと色彩構成」 抽象絵画の始まり、カンディンスキー、モンドリアンなど			前回と同じ
8	6月18日	火	○	「身体・物質・偶然性」 第二次大戦後の新しい表現、ポロック、ロスコ、具体、アンフォルメルなど			(板段ボール、アクリル絵具セット)
9	6月25日	火	○	「空間構成」70年代～ポップアート、コンセプチュアルアート、 ソルウィット、フランク・ステラ、リヒターなど			(同上、ハサミ、段ボールカッター)
10	7月2日	火	○	「空間構成」80・90年代～ニューペインティング、シュミレーションイズム、 キーパー、デミアンハースト、森村泰昌、村上隆、奈良美智など			(同上、ハサミ、段ボールカッター、 布ガムテープ)
11	7月9日	火	○	講評会 ドローイングを壁面に構成して作品を完成させる。			仕上げた作品を壁面に配置して構成する。 (布ガムテープ)

学習目標

アーティストとして制作していく上での基礎となる力や美術の知識を学ぶ。古今東西の絵画にまつわる様式や表現の歴史について知り、さまざまな絵画様式を体験する。絵画の遍歴や特質を知ること、美術の歴史の延長線上にある現代の自分の位置について考える。今後、自分だけの新しい表現様式を作っていくための基礎知識を培う。

予習・準備物

この授業は、毎回現代アートの美術史の基礎知識をレクチャーします。時代の順に様々な作品を紹介していきます。そして、その内容と呼应した実技の課題に実際に取り組みます。1回につき1点の課題作品を仕上げ毎授業の終わりに提出します。

注意事項

美術史についてのレクチャーの後、その内容とリンクした課題に取り組みます。毎回事なるテーマで美術史上の名画の作品鑑賞をして、そのテーマに合わせた制作をします。現代まで順番に時代を追って体験していく内容となっているので、欠席の無いように。出席できない場合にはその回の実技課題の内容、または参考図書等を紹介するのでそれを読んでレポートや制作物を提出すること。制作の進行状況に合わせて上記の日程と内容はアレンジすることがあります。

評価方法

導入の講義を聞かないと学習できないため出席を重視します。各回のレクチャーの理解度、課題の提出、をそれぞれ各回2~4ポイントとして点数を合計します。さらに、取り組む姿勢と、講評での最終課題の評価を加算して合計を出します。満点は合計100点。欠席した場合は、レクチャーはその回で取り上げたキーワードについて自分で調べてレポートにまとめ、感想を書いて提出すること、課題は仕上げ後日提出すること、によって加算します。

版画講座

担当教員 今井圭介
受講アトリエ [502]

2024/04/11(土)- 2024/07/13(土)
11:00-12:30

授業内容

まずは様々な版画がどのように展開をしたのかから始め、次に日本を中心に浮世絵版画及び近・現代版画までを実際の作品や資料、画像などからわかりやすく解説していきます。

授業スケジュール/計画

			指導	AM	指導	PM	備考
1	4月11日	木	○	版画よもやま話①(版の表現)		実技カリキュラム	
2	4月20日	土	○	版画よもやま話②(版画の技法)		実技カリキュラム	
3	5月11日	土	○	版画よもやま話③(素材と用語)		実技カリキュラム	
4	5月18日	土	○	浮世絵版画①浮世絵版画のはじまり		実技カリキュラム	
5	5月25日	土	○	浮世絵版画②技法と制作システム		実技カリキュラム	
6	6月1日	土	○	日本の腐蝕銅版画と司馬江漢		実技カリキュラム	
7	6月8日	土	○	日本開国! 横浜絵と開化絵		実技カリキュラム	
8	6月15日	土	○	光線画の浮世絵師・小林清親		実技カリキュラム	
9	6月22日	土	○	日本の近代版画と創作版画運動		実技カリキュラム	
10	6月29日	土	○	詩と版画		実技カリキュラム	
11	7月6日	土	○	東京国際版画ビエンナーレと現代版画		実技カリキュラム	
12	7月13日	土	○	時代の寵児・池田満寿夫		実技カリキュラム	

学習目標

「版画」は明治の後半あたりから使われ始めた言葉でいわゆる造語です。そこには版にも独自の表現があるのだ、版画はすなわち版で描く画(え)だという意識がうかがえます。こうした版画について歴史的な知識を学び、より興味をもち、関心をたかめ、理解を深めていくことを目標にします。

予習・準備物

日頃より、美術館や博物館、ギャラリーなどをまわり、版画を中心に鑑賞を行ってください。また、授業では毎回資料を配布するためファイルができるように準備してください。

注意事項

講義で配布された資料をファイルにしたら毎回持参してください。また、興味や関心をもった作家、作品、事柄などはその後自身でも調べたり、研究をするように心がけてください。

評価方法

授業出席数、レポート